

# ツアンさんと私

やさしくてはずかしがりやの人

グループE

鄭多珍 (ジョンダジン)

## 1. ツアンさんの印象

最初、ツアンさんと私たちのグループEは私が住んでいる留学生会館で散歩のかわりに食事をした。韓国料理を食べながら、お互いにさまざまな話をした。その時、ツアンさんともいろんなことについて話し合った。以外にツアンさんが韓国について知っていてびっくりした。そして、ツアンさんと話合った後にはツアンさんがとてもやさしくてはずかしがりやという印象を受けた。

私がツアンさんにツアンさんはやさしい人だと言った時、ツアンさんはとてもはずかしがりながら自分の知り合いとか家族と友達のことなら何でも手伝いたいと答えた。ツアンさん自分も他の人に支えられた経験があって自分も他の人が困れていると手伝おうと思うと言った。この話を聞いてツアンさんはやっぱりやさしい人だと思われた。

ツアンさんに対して新しく分かった事実はツアンさんがとてもはずかしがりの人なのだ。実際に、学校で発表があると緊張しすぎるし、はずかしがってちゃんと発表ができないと言った。日本語の発表ではなく、母国語のベトナム語の発表でもはずかしくて緊張になって難しくなるという。また、私と一緒に話し合う時にも自分のことに対して話すことをとてもはずかしがった。それで、ツアンさんに対して新しく分かったことはあんまりないけれども、インタビューが終わる前にツアンさんが最近おもちゃを作ることに興味があると聞いた。次のインタビューではこの部分についてもっと知りたい。

## 2. 特に聞きたいテーマ：変化している自分自身・ツアンさんの興味のあること

このインタビューをしながらツアンさんに聞きたいことが二つできた。最初は変化している自分自身だ。ツアンさんは日本に来る前には自分で料理を作ったこともないし、掃除をやってみたこともなかったと言った。家で両親と一緒に生活して家事は全部母がやってくれたからだと言う。しかし、日本に来たからは全ての生活を自分でしなければならぬといけないと言う。皿洗いや掃除、そして洗濯などの家事はもちろん生活費さえツアンさんが働いて生活していると答えた。ベトナムではいつも両親から小遣いをもらっていたからバイトもしてみたこともないといった。このようにツアンさんは日本に来て変化している。これ以外にもどんなことが変化したのか、その変化が自分にどのような影響を与えたのかについて聞いてほしい。

そして、次はツアンさんの興味のあることだ。以前のインタビューが終わる時にツアンさんが今おもちゃを作ることに興味があることを聞いて、どんなおもちゃをどのように作るかなぜおもちゃをつくるのが面白いかにしてもっと知りたい。そしておもちゃの作り以外には何に興味を

持っているかについて聞きたい。

### 3. 話し合いの結果

#### ① 6月6日の話し合い

今回のインタビューは多文化コミュニケーションの授業を受けている建物の2階にある国際ラウンジで話し合った。国際ラウンジは留学生たちが勉強したり昼ご飯を食べたり日本の学生と交流するところだが、ツアンさんははじめに行くところだと言った。この時、私とツアンさんは同じ留学生だが、私は交換留学生で、普通ほかの留学生たちと生活していることに比べて、ツアンさんは秋田大学の学部生だから私とは違う留学生活をしていると感じた。インタビューをするときラウンジには他の人がほとんどいなかったので静かな雰囲気でも話し合うことができた。

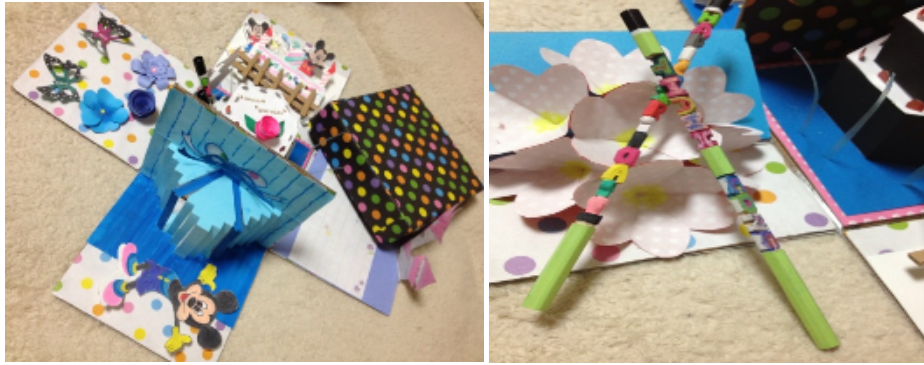
インタビューの時、一番聞きたいことは最近ツアンさんが興味を持っているおもちゃを作ることにあった。それで、そのおもちゃについていろいろ話し合った。ツアンさんがおもちゃを作るようになったきっかけは友達の誕生日のプレゼントを作るためだったと言う。日本に来てからU-tubeのようなネットサイトで情報を得て作るみたいだ。このおもちゃは、ケーキの形で外の部分をオープンすると中身に新しい模様の飾りが出てくるものだと説明した。ツアンさんは普通、学校が終わってからバイトに行き家にもどったからこのおもちゃを作ったと言った。1ヶ月半ぐらい毎日1時間から2時間かけて一つのおもちゃを完成できると言う。

私はバイトが終わって疲れた時何もしたくないのに、時間をかけて何かを趣味としているツアンさんが羨ましいと思った。そして、せっかく時間をかけてつくったものなのにそれをほかの人にプレゼントすることはもったいないと思われたが、ツアンさんは大丈夫だと言った。ツアンさんは他の人のために何かをすることが楽しそうに見えた。そして、完成できたものより、自分が何かを作っていること自体を重要に思っているそうだった。はずかしがりだったツアンさんだが、おもちゃの話をするときは積極的に自分が作ったことについて説明してくれた。

#### ② 6月20日の話し合い

6日にツアンさんと話し合っ、ツアンさんにとって何かを作ることの意味についてもって聞きたいと思った。それで、今回のインタビューではツアンさんの考えについていろいろな話を聞いた。

インタビューを行った場所は6日と同じく、国際ラウンジだった。インタビューのはじめに、ツアンさんは私にこの前話し合ったおもちゃの写真を見せてくれた。この写真はツアンさんがはじめておもちゃをつくったものだ。



今は盛岡に住んでいるベトナムの友達にプレゼントしたものだと言った。今もツアンさんはつくりたいものがあるって作り方などの情報をさがしているらしい。そして、今回に作ったものもほかの友達にプレゼントしたいと答えた。

私はツアンさんがおもちゃを作りながらいろいろその日の物事とか、最近悩んでいることについて考えているのではないかとおもった。が、ツアンさんは何かを考えるために何かを作るのではないと言った。おもちゃを作るときには、ただ、作っていることに集中して、どんどんできていく模様を見るのが楽しいと言った。

#### 4. まとめ

ツアンさんにとって、一日の日課が終わって何かを作ることは趣味生活とともに、友達とか自分が大事に思っている他のひとのための時間だと思う。おもちゃがどんどん完成できることを見ながら達成も感じるができるし、そのおもちゃをほかの人にプレゼントして、自分の心を相手に伝えることもできるだろう。

さらに、ツアンさんがおもちゃを作ることを通じて、一日中のいろいろなことを忘れてただ作るその行為自体に集中できたことは、もし忙しくて大変な留學生活の中でストレスを解決する方法ではないかと思った。私も掃除とか洗濯などの家事に集中して悩んでいることとか大変なことを忘れようとした経験があったからツアンさんが理解できた。

最後に、ツアンさんと話し合っ、私もツアンさんのように、私の大事な人々のために何かしてあげることができるかどうか考えてみるようになった。いつも私は周りの人に支えられるばかりで、自分から他のひとのために何かをしたいと思ったことはなかった。だが、今から私もツアンさんのように他の人のことを考える人になりたい。

#### 5. 授業を終えて

##### ① 文化・コミュニケーションとは何か

このクラスを受ける前には文化というものはただ国と国のものだと思った。韓国人なら韓国人の文化、日本人なら日本人の文化のように国によって区別されることが文化だと思った。が、今

回、韓国人とベトナム人と日本人のグループメンバと話し合ってみると、同じものを悩んでいた、考えかたが似ていたりすることが分かった。同じ国の人といっても考え方や思考方法は様々だから、文化というものは結局個人別のものだと思われた。

さらに、コミュニケーションというものは話し合いの以上に相手のことを理解しながら話し合うことだと思った。相互に伝えたいことを理解して相手の話したいことを分かってくれるものがコミュニケーションだと思う。

## ② 授業について

授業で一番難しいことは、日本人ではない二人でインタビューをすることだった。簡単な質問などは問題なかったが、相手がある時どんな気分だったかなど繊細な言葉が必要だったとき難しさを感じた。もし、相手が知っている言葉でも私が知らない時もあったし反対の場合もあった。

この授業で一番よかったと思ったことは散歩をしたときだった。実際にインタビューでツアンさんについて得た情報とかイメージより、自然に話し合うことができた散歩のときいろいろ相手の話を聞くことができたからだ。

これから私が知らなかった人を知るためにこのようにインタビューをしたり工夫する機会はありませんと思う。今回の授業を通じて、レポートまで書きながら他の人を理解するために頑張ったことは何年が過ぎても忘れられないいい経験だと感じた。